



健康ニュース

047-421-0118



タバコが口腔内へ及ぼす影響



タバコが体に良くないという話は有名ですが、口腔内に関しても決して例外ではありません。むしろ、口腔内というのは、タバコの煙が最初に通過する場所なので、タバコの影響が強くなる場所でもありま

す。また、タバコの副流煙を周囲の人が日常的に吸うことによって、歯茎の色が悪くなってしまう、むし歯になりやすくなる、といった研究結果も報告されています。



歯周病の悪化

タバコから出る有害物質は、歯肉の酸欠、免疫力低下、唾液の分泌低下などを起こし、歯周病のリスクを高めます。また、歯周病特有の症状である出血や歯茎の腫れが現れにくいため、歯周病の発見が遅れやすく、手遅れになることがあります。



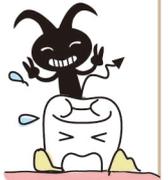
色素沈着

タバコを吸っていると生体反応としてメラニン色素が多く作られるようになり、歯茎や唇が黒ずんでいきます。



ヤニの沈着による悪影響

歯に茶色いヤニが一旦つくと、落とすのが非常に困難で、見た目が悪くなります。またベタベタした表面に汚れが溜まりやすくなるので、歯周病やむし歯の原因になります。



口臭の悪化

タバコ特有の匂いに、歯周病による口臭が混ざり、口臭がキツくなりがちです。



抜歯後、インプラント後の治りが悪くなる

タバコを吸っていると、傷口の治癒が遅くなるため、抜歯後、インプラント後などの回復が悪くなります。特に、インプラントではインプラントと骨の結合に影響が出るため、タバコは控える必要があります。



お口のがんのリスクが上がる

タバコには多くの発ガン性物質が含まれると言われていたため、タバコを吸うことによってお口のがんのリスクも高くなります。

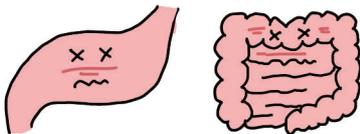


噛めない入れ歯を使い続けるリスク



入れ歯は、使っていくうちにだんだんと噛む面がすり減ってきたり、骨が痩せて歯茎が減り、内面が合わなくなったりするなどして、噛めなくなってくる場合があります。そのような入れ歯を無理に使い続けていると、次のようなことが起こるリスクがあります。

胃腸に負担がかかる



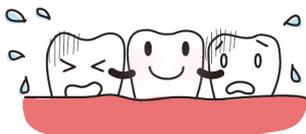
顎関節症を引き起こす



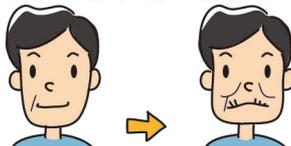
歯茎がブヨブヨになる



残っている歯の寿命が縮む



顔にしわができる



認知症リスクが高くなる

